

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102568		
法人名	医療法人田北クリニック		
事業所名	グループホームあみ		
所在地	奈良市二条町二丁目3-18		
自己評価作成日	平成26年3月7日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成26年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近鉄西大寺駅より徒歩8分、平城宮跡に隣接という立地条件に恵まれ、毎朝の散歩コースになっています。オーナーが地球環境に関心深く、未来のためのエコロジーハウス(太陽光発電・太陽光温水器)です。また、食材にもこだわり、入居者様の身体に優しいオーガニックな食材を用いた家庭的なお料理を提供しています。施設の名前になっている「あみ」というのは「私」でもあり「あなた」でもあり、「みんな繋がっている」という意味で、みんなが楽しく暮らせる愛あふれたホームを目指しています。医療法人であるので、24時間体制でクリニックと医療連携をし、医療面・健康面でも安心です。また、同系列にかふえがあり、気軽に出かけられ、地域社会とふれあい、楽しみを持てる場になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、近鉄西大寺駅に程近く、世界遺産に登録されている平城京跡が目の前にある場所に開所されています。事業所の周りに植栽をされ落ち着いた環境が創造されています。また、事業所内は清掃が行き届き、清潔で採光にも工夫し明るい生活の場が確保されています。利用者も趣味や特技を生かしながら穏やかに過ごされています。なお、看護師を配置し、医療・健康面への十分な配慮がされています。又、地域とのかかわりを重視され、様々な取り組みの下、利用者の社会性の確保にも努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念(笑顔・笑声・笑心)を玄関前、各フロアに掲示し、「あみしあわせ＝全ての人びとの幸せ」を全職員が共有している。また、クレド(信条)を携帯し、常に振り返り、ケアにあたっている。	理念を唱えるだけでなく、職員に自分のケアが利用者にとってどう影響するかを考えながら接するようにされています。業務に追われずゆとり接する事を職員同士で共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様との散歩や職員の出勤・退勤の挨拶・かふえを通じてのふれあいがある。自治会のお月見会に毎年自治会員として参加し、アトラクションを当ホームがらせていただいている。七夕には地域の方がそうめん流しの竹を作ってくださいました。	立地環境から、日常的な交流に希薄感がありますが、自治会への加入や地域の行事への参加・外出時の挨拶等、事業所が孤立しない為の取り組みをされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動に、積極的に参加している。自治会のお月見会のアトラクションを担当している。ホーム諸行事には地域の方に参加をお願いしている。認知症を抱える方の相談にも応じている。あみかふえが地域のコミュニティとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則として、奇数月の第2月曜日の13:30から開催している。ご家族の意見や地域の方、包括支援センターの意見を取り入れ、より良いケアの実践に活かしている。	幅広いメンバーで構成された運営推進会議を設置し、定期的に会議が開催されています。会議では利用者の状況報告や運営に関わる諸問題について意見交換をされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奈良市主催の研修会に参加し、長寿福祉課の方に相談にのっていただきアドバイスを受けている。	事業運営の諸問題やサービス上の課題などの相談・解決に適宜行政窓口を訪問し、連携強化に努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議・社員研修において話し合い、拘束の弊害について共通認識を深め身体拘束防止に取り組んでいる。やむなく行う場合はご家族の同意を得、記録し、月1回は、代替え案はないか見直している。	身体拘束による弊害をすべての職員が正しく理解し、しっかりした見守りの中で支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社員研修にて虐待について学んでいる。常に入居者様の心身の状況を把握させていただき、職員の言動や行動に注意を払っている。フロア会議でも話し合い、尊厳を保持することについての意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に出席している。成年後見制度を利用されていた入居者様もおられました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日または前日に、約2時間かけて説明し、納得していただいたうえで印鑑を押していただいている。退去時は、ご家族と話し合いを重ね、次の施設や入居先の確保を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、しっかりとお話を伺い、また運営推進会議時にもご意見やご要望をお聞かせいただき、謙虚に受け止め対応している。ご意見と対応は記録に残し、職員も共有している。	訪問時や利用報告書の活用により、家族などの意見聴取に取り組み、定例会議で検討し、必要な事項はサービスに反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議を行い、代表・管理者も参加し、職員と意見交換を行っている。	毎月の会議で、運営上の課題や問題点などについて意見交換し、出された意見などを検討して運営に反映させる仕組みがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員との対話を大切に、意見や気持ちを受け止めている。職場状況を把握し、意見や気持ちを反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・パートにかかわらず、各種研修会出席の機会がある。法人内で勉強会を開くなど、スキルアップに努めている。参考書や模擬テストを購入して配布するなど、資格取得を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや施設を相互訪問したり研修を通じて、ネットワークを作っている。認知症フレンドシップクラブにも参加し、昨年RUN伴マラソンにも参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と面談し、職員を交えて本人の話を傾聴し、思いを受け止めるようにしている。また、ご家族からも情報をいただくことも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の願いや大切にしていること、困っていらっしゃることを面談にてじっくりと話をお聞きし、思いを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際には、ゆっくりと話をお聞きしご本人およびご家族のより良い支援について、出来る限りの援助や支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの生活を大切に、実現のお手伝いをしている。得意なことや趣味を日常の中で生かしていただき、園芸やお料理等を教えていただいたりし、他の入居者様も職員も含め、大家族として暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの希望を聞いたり、ホームでの生活の様子を話して、安心していただけるようにしている。またご家族様の関わりも頂戴し、共にケアしている。ご本人がご家族に話されたことも教えて頂き、思いを受け止めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せき、友人やご近所の方などの面会を積極的に受け入れている。いただかれた便りに返信の支援をしたり、地域の祭り等に出かけるなど、社会との関わりの支援をしている。	安心で満足した利用を図る上で、馴染みの人・場所との関係の維持は極めて大切との思いがあり、地域の祭りに出かけるなどの支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や特徴を理解し、大家族として、互いを繋いでいくように関わっている。レクリエーションなどを通じコミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も、その後のご様子を電話でお聞きしたり、その後の暮らしの場所に、面会に行かせていただいている。ご相談に乗らせていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日共に暮らす中で、ご本人の希望や不安等、お気持ちを聞くようになっている。表情や言動を五感を通して掴み、少しでもその方の思いや意向に近づくように努めている。	暮らしの中で言動から、希望や意向を詳細に把握・記録しサービスに活かす取り組みをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前後に、ご家族から出来るだけ情報を頂戴し、これまでのサービス利用の際の情報も得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、常に状態を把握し、本人が穏やかに健やかに生活できるよう、配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアとも毎月2回の会議を開き、ご本人やご家族や関係者から、随時頂戴していた問題点や意見を話し合っている。可能な場合は、会議にはご本人やご家族の出席もしていただき、より良い暮らしのためのケアの計画を立てている。	介護計画は、利用者主体の暮らしを反映したものとするため、関係者が定期的に意見交換し、現状に即したものとなるように努められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、体調や出来事、言動、周囲との関わり等を記録し、申し送りをし、確実に伝達して共有し話し合い、介護計画の見直しに役立てている。記録の書き方についての勉強会や研鑽をおこない、より良い記録をするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	クリニックを有し、医療面に細やかに対応している。かふえも有し、ご家族や地域のコミュニティとして触れ合いの場となり、また気軽に出かけ楽しむ場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんのご協力により、誕生日会・ヨガ・習字・唄の会を行い、興味のあるものに自由に参加していただいで楽しんでいただいている。子育て支援サークルとのつながりで、小さい子どもと若い母親との交流もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの病院や、新たな病院を選択していただき、ご家族が都合が悪ければ付き添っている。また理事長がクリニック医師であるので、毎週1回訪問診療実施し、入居者の健康管理を行って、必要時は他医療機関に繋いでいる。	契約時に「かかりつけ医」について話し合わせ、家族などの意向が尊重されています。なお、定期的に訪問診療があり、適切な医療確保が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックの看護師が訪問看護を実施し、日常の健康状態の報告と相談をし、協力しながら入居者様の健康管理を行い、変化があれば速やかに医師に報告相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を2ヶ所の病院としており、入居者様の受け入れをしていただいている。入院後は、病院と連絡を取り合い、病状の把握と、リハビリ状況などを見学し、退院後の生活がスムーズに行くように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からご家族と重度化や週末期について話し合っている。場合によっては、他の施設などの申し込みを依頼している。医師とも相談し、状態悪化の時は入院治療し、良くなれば退院して、出来るだけホームでの生活を続けていただけるようにしている。	管理者は、家族などが終末期への関心の高い事を良く理解され、契約時にその対応方針を説明し了解を得られています。なお、看取りの実績もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会で、応急手当の勉強をしている。消防署に来ていただいでいる講習も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、年に2回は避難訓練を行っている。避難訓練には自治会長にも立会いただき、共に有事の対策を講じ、相互協力体制を築いている。	消防署の指導の下に定期的に避難・消火訓練が実施されています。また、緊急時の連絡体制が整っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、人格を尊重し、丁寧な言葉遣いを心がけ寄り添っている。又、記録にも事実を冷静に客観的に記録するようにしている。	人格を尊重し、一人ひとりに合わせた話し方・語調に配慮した対応をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お1人おひとりの心身の状態をみつめ、それぞれに合った話しかけをし、お気持ちやご希望を引き出していくことを心がけている。言動は逃さず把握し、記録し職員が共有してケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴等をそれぞれのペースに合わせている。その日の予定はあらかじめ説明し、希望を聞き、出来る範囲で希望に添うようにしている。入居者様との会話を大切に、その中からもご本人らしさを掴むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝・入浴後の衣服選びを、本人と共に行っている。2か月に1度、出張理美容サービスがあるが、ご家族と希望の店に行かれる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いのできる方はスタッフと一緒に、調理やおやつ作り、盛り付け、配膳、食事用意や後片付けをしている。献立を説明し、調理の音や匂いで食指を動かし、楽しみを持っていただいている。希望の献立をお聞きし、メニューに反映させている。	生活の中で、食事は楽しみの一つである事から、能力に合わせて利用者も調理の準備や配膳等を一緒に行い、楽しい食事環境への取り組みをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、摂取カロリーや摂取量は管理されている。摂取量は記録し、一人ひとりに合わせた種類や携帯にし、必要量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。不十分であれば介助させていただいている。状態により歯科受診し、口腔内を清潔に保っている。歯科医から職員への指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく布パンツを使用し、排泄パターン・習慣を把握してトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。出来ることはご自身でいただき、失禁時は傷付けられないよう配慮している。	一人ひとりの排泄習慣の把握・記録と行動観察の徹底により、自立排泄の支援に努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が大きな影響を及ぼす事を職員全員が理解し、散歩や運動、腹部マッサージを行っている。水分補給と食事による栄養を、管理栄養士と共に考え提供している。なるべく自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や、入浴するかどうかを入居者様にお聞きしている。入浴可能な時間帯は、一応決めてはいるが、失禁や汚染時は、随時入浴していただいている。	入浴日や入浴時間帯の設定をされていますが、本人の希望に合わせた支援が図られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて休息を考えている。いつでもご自由に横になれるという安心感を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がいつ、どんな症状に対する薬を、何錠服薬しているか職員全員が認識している。毎回、服薬支援の担当職員を決めて、確実に服薬していただいている。用法や用量は、職員間で確認をし、間違いのない安全な服薬を確保している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居の際に生活歴を聞いたり、日々、入居者様やご家族との会話の中から趣味や嗜好をお聞きし把握しており、それらを生かして生活していただき、張り合いを感じて頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩を楽しんでいる。個々の体力やご希望に添って散歩の距離を配慮している。日用品の買い物や、かふえでお茶を飲んだりしている。ご家族と共に外出し楽しまれたり、家族の方の発表会に出かけられることもある。	外気に触れることの有効性をよく理解し、近くにある平城京跡を中心に、散歩を日常化されています。また、大型商業施設があり、買い物等による外出支援にも取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとって金銭管理は難しく、紛失の危険性も大きいので、原則は金銭の所持はしていないが、強い希望のある方にとっては、ご家族と相談し、少額を自己管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話をかけていただいたり、手紙を出したりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや窓の開閉により、採光や室温に配慮している。清掃をし、床の水こぼれや障害をなくしている。季節に応じた飾りつけを、入居者様と一緒にしている。	共用空間は、清掃が行き届き、採光にも配慮され明るく、又、異臭もなく清潔感があります。季節の花が生けられ、利用者の作品による装飾などで居心地よく過ごせる場所を確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置きくつろいでいただいている。また、他のフロアに職員と一緒にいき、気の合った入居者同士で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、鏡台、仏壇、テーブル等、以前から使用していた物を居室に置き、写真を飾ったりCDを聞くなど普段の自宅での生活と変わらないよう配慮している。	使い慣れた家具・調度品や好みの品が持ち込まれ、穏やかに過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽に手すりを付けたり、目印をつけたり居室の床材を替えたりする等、環境を整備し、一人ひとりの力を発揮できるような声かけを行い、混乱なく自力で行動できるよう工夫している。		